

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国 語
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・学習には意欲的で文字を習うことが特に好きだが、鉛筆の持ち方が身についていない児童や筆圧の弱い児童もいる。 ・伝えたいことを文章に表現したり話したりすることにまだ慣れていない児童も 10 % 程度いる。 ・文章の順序や内容を一緒に追っていくと理解できるが、様子や気持ちを想像するには個別の支援が必要である。	・書写の学習を充実させ、正しい鉛筆の持ち方について繰り返し指導する。 ・作文の練習をしたり、わかりやすい題材で話法を示し発表する練習をしたりする。 ・文章の読み取りの際、言葉を頼りにしながら内容を読み取るスキルを繰り返したり、音読をする中で言葉の楽しさを味わわせたりする。 ・読み聞かせの時間を週に 1 回程度行い、読書を通して豊かに想像する力を育てる。	・朝学習や家庭学習で文字を丁寧に行ったり文章を書いたりする練習を繰り返し行う。 ・朝の会や帰りの会、学級活動の中で発表する機会を多く持たせる。日常生活でも短いお話をする場を設けていく。 ・朝読書によって、本に親しませ、言語の知識と感覚を豊かにしていく。
第 2 学年	・意欲を持って学習に取り組んでいる児童が 85 % 程度いる。特に音読や読書、発表会の学習には意欲的である。 ・文章を書くことについては、したことを順序よく書けなかったり、自分の考えを整理して書けなかったりする児童が各クラス 5 人程度いる。 ・大事なことを落とさずに聞く力が足りない児童が各クラス 5 人程度いる。 ・漢字書き取りについて個人差が大きく、正しく覚えるのに時間のかかる児童も各クラス 3 人程度いる。	・音読発表会を行う機会を多くし、友達の工夫している点を取り入れる指導をする。 ・観察文、自分の考えを文章化する学習を重視し、適切な題材や、書き方を具体的に指導していく。 ・相手意識が育つように、対話形式の『話す・聞く』活動を取り入れる。また、基本的な話型を具体的に表すことや、発表メモや聞き取りメモを書く練習をたくさんさせる。 ・授業の中では、新出漢字の書き順を必ず確認し、学習した字については、毎日家庭学習させ、漢字練習を定着させる。	・教科書以外の詩なども取り入れ、いろいろなパターンの音読練習をさせる。 ・一週間に一度は、絵日記を書かせ、したことや感じたことを書くことができるようにさせる。 ・学習したことの発表会を適時に行い、話したり聞いたりすることに抵抗がないようにさせる。 ・朝の時間を利用してスピーチをする練習を続けさせる。 ・漢字の書き取り能力を向上させるため、適時漢字テストを実施する。
第 3 学年	・教師の発問、指示に対して意欲的に取り組もうとする児童が多いが、話を最後までしっかりと聞けない児童や、発言に対し消極的な児童も 15 % ほどいる。 ・まず、話をしっかりと聞き、次に、自分の考えや思いを言葉にしてはっきりと伝える力を育	・聞く力、話す力を身につけさせるため、朝の会や授業でのスピーチやグループで話し合う機会を充実させていく。 ・授業の中で音読する機会を増やしたり、家庭学習で音読カードを活用したりして、声に出して読むことの楽しさを味わわせる。また、授業では、考えたことを話し合う活動を大	・学活、朝の会等でも意見交換を活発にさせていく。 ・漢字に興味関心を持てるように、学習活動を工夫する。家庭学習も活用する。 ・朝読書や図書の時間を活用し、読書に親しませる。

	成する。	切にし、人前で発表することへの抵抗を少なくする。	
第4学年	・物語教材で場面ごとに情景や心情を読み取る学習を進めた。学習にはたいへん意欲的に取り組むが、場面の様子や登場人物の行動、心情の読み取りは個人差が大きい。説明的文章で段落と段落との関係を考えながら読むことに苦手意識が高い。グループでの話し合い活動には積極的だが、話型を整えてのやりとり、人前での発表、話の中心や順序に気を付けて話すことが苦手な児童が30%程度いる。文字感覚が身に付いておらず、漢字を使う力、字形を整える力が不足している児童が30%程度いる。	・読解では、叙述から情景や心情をイメージする、段落構成を意識することを繰り返し指導していく。 ・話す聞くでは、人前での発表を多く経験させるだけでなく、正しい話型で話し合う技能を身に付けさせる。発表に向けて、文章を書くなどして言葉の使い方や文章の構成の仕方を指導する。 ・漢字の学習に年間を通して継続的に繰り返し取り組ませ、漢字を書く力を徹底して身に付けさせる。 ・書写の授業を大切にし、基本点画と筆順のきまりをおさえ、硬毛一体化を推進して日常化できるようにしていく。	・音読活動、朝の会でのスピーチ、話し合い活動、学習後や行事後の作文を年間通して継続的に行う。他教科の学習でも、自分の名前をていねいに書く意識から啓発し、根気強くノート指導をし、正しい字を示す。日常生活の文章の中で、積極的に漢字を使わせていく。
第5学年	・語彙が十分ではないために自分の気持ちを適切に表す言葉を使うことができない。 ・構成を考えたり、要旨を明確にして書いたりすることが苦手である。 ・漢字を正しく書いたり文章の中で適切に使ったりする力が不足している。	・多くの本を読むことを薦め、語彙を増やすことができるようにする。スピーチ等の機会を増やし、話し方を身につける。 ・文章を書かせる機会を多くして、文章の組み立てや言葉の使い方、事実と感想・意見の区別などを指導する。 ・家庭学習等で漢字練習を繰り返し行い、定着を図る。	・年間を通して、朝の会でのスピーチを行い、自分の気持ちを適切に表せるようにする。 ・読んだ本の題名やページ数をカードに書き込むことで読書意欲を奮起させる。 ・書写指導や漢字指導を通して筆順や字形に気をつけて文字を書くことができるようにする。
第6学年	・物語文の読解、説明文の構成などの理解はほぼできている。しかし、話す・聞くことについては完全に身につけているとは言えない。 ・言葉や文章に自分の思いや考えを十分に反映しきれていない児童が多い。	・音読や読解などで長文に触れる機会を増やし、さまざまな言語にふれさせる環境を整える。 ・助詞にまで気を付けた正確な会話ができるよう、適宜指導する。感想文をたくさん書かせたり、繰り返しの漢字練習や言葉の意味調べ、音読を行ったりして、基礎基本の定着を図る。	・年間を通して「スピーチ」を行い自分の思いや考えをはっきり伝えられるようにする。 ・読書活動、日記等、様々な家庭学習活動を取り入れる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	社 会
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第3学年	・体験的な学習を重視し、地域の様子や特色など、具体的に理解できるような指導をしているが、資料を読み取る力、活用する力や社会的事象への知識、理解、興味関心に個人差があるため、全体での定着を図るための指導が必要である。	・一つ一つの学習に対して教材教具の準備をしっかりと行い興味関心をもたせ、丁寧に指導していく。また、絵地図、白地図、新聞作りなどの作業を取り入れる。その際、子ども達がどのようなイメージや経験をもっているかを把握し、学習過程での個々の支援を徹底する。	・作業や体験を通して、様々な方法を用い、複数の具体例について、調べる・試みる・確かめるなどをして定着を図る。 ・学習テーマや活動方法を示唆したり、作品モデルを提示したりするなどの指導、支援をする。
第4学年	・関心を持って体験・見学し、事故や火事、ゴミ問題・水の節水等、自分達の問題としてとらえ生活を見直し改善しようとする意欲をもつように指導している。調べたことを分かりやすくまとめ、表現する力の向上が望まれる。	・自分の生活の周りに目を向けさせ、家庭での生活の振り返りから授業を展開し、日常から意識を高めさせる。調べたことをもとにして、自分の考えを深める。そして、まとめる技能を高めるための例示などによる支援を行う。	・教科全般で、日常的に自分の考えや分かったことをまとめる活動を行っていく。 ・新聞などを鑑賞したり交流したりすることで、相互で学習したことを高め合い、自分自身の生活を振り返えさせる。
第5学年	・教科書に書かれている内容を自分の問題として捉えることが苦手で、課題に対する意欲をなかなかもてない。 ・調べ学習にでは、課題に沿った内容をまとめることはできるが、工夫に困ってしまう。	・調べ学習等で具体物を示したり、社会科見学や体験学習で実際に見聞する機会をもったりする。 ・教科書に書かれている社会的事象が自分たちの身近な問題であることに気付かせ、課題に対する意欲を高める。	・課題を各家庭における話題に近付けて提示し、自分たちにも関係のある話題であることに気付かせる。 ・学習したことを生かし、よりよい生活や社会の在り方を考えさせる。
第6学年	・歴史の認識には大きな隔たりがあるが、新聞づくりや、パンフレットづくりなどにおいて、児童は意欲をもって活動している。	・日本の歴史等、興味関心をもてるような本を多く読ませたり、ビデオ教材を活用したりして、意欲的に学習に取り組ませる。	・インターネットや読み物資料などを活用し、幅広い視点からの歴史観をもたせるようにする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	算 数
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第1学年	・20までの数の合成と分解について十分習熟していない児童がいる。したがって、数の概念がまだ完全に構築されず、たし算やひき算の計算に時間がかかる。文章問題では、内容の読み取る力がまだ10%程度いる。	・具体物の操作や数直線の活用場面を多く設定する。ゲーム的活動を取り入れ、体験的に理解を深める。繰り返し計算に取り組み、たし算やひき算を早く正確にできるようにする。文章題を図示し、イメージをもたせるようにする。また、問題提示を易から難へ進めるよう具体的に教材の精選をしていく。	・20までの数の合成と分解の計算練習を繰り返し行う。理解の進まない児童には、個別対応と共に、家庭の協力を仰ぎ家庭学習も合わせて充実させていく。文章問題については、読み取るためのスキルを理解させるためにスモールステップで取り組ませる。
第2学年	・たし算やひき算のひっ算が正確にできていない児童がいる。単元をおえると学びが持続しない児童のためにも、繰り返し、継続的に練習問題に取り組ませることが必要である。 ・時こくと時間の違いや、何時間後・何時間前などの概念を捉えるのが難しい。具体物を使って確認できるようにする。	・宿題などで計算練習を意図的に取り入れる。 ・補充問題を用意し、計算力の定着を図る。効果的な文章題などにふれ、筋道を立てて思考する練習をする。 ・抽象的なとらえ方ができていない場合はあせらずに、具体物に戻って指導する。	・家庭学習を呼びかけたり、個別指導の時間を確保したりして、児童の力に応じた内容の練習問題に、年間を通して取り組ませる。児童の達成度に応じ思考力を育てるプリントなどを用意し発展的な力を養う。
第3学年	・四則計算は概ねできる。計算をする時間に個人差がある。 ・知識理解の学習内容は、よく身に付いている。 ・文章問題での演算決定が不得手な児童が10%いる。	・TTと担任が協力し、個人差に応じて個別指導を行う。 ・演算決定に関する言葉に線を引く方法を教える、線分図をかくなどして、演算決定の手がかりとする。また、文章問題を数多く解くことにより、文章の読み方に慣れさせる。	・学習内容の復習、計算のくり返し練習などを家庭学習で取り寄せ、基礎基本の定着を図る。 ・達成度に応じたプリントを用意し、取り組ませる。
第4学年	・表現処理、知識理解の学習内容はおおむねよくできている。文章題においては、その問いが求めている答えをきちんと把握できていない場合が多い。かけ算九九を暗唱できていない、直線が作図できないなど、4年生までの学習が身についていない子が数名いる。	・図解、具体物の利用、繰り返しの作図、学習ゲームの利用等、教材教具や指導法の工夫をする。理解を深めさせる。文章題では、単に答えを出す為のやり方だけを覚えさせるのではなく、なぜそうなるかを考えさせる。基礎学力が定着するよう、繰り返し練習させる。理解の遅い児童には個別に指導する。	・家庭学習等でプリント・ドリルなどにより繰り返し練習に取り組ませ、計算力の定着を図る。理解が不十分な児童に対しては個別に対応し、家庭と連携して指導する。

第5学年	・小数の乗法・除法の学習では、計算の仕方への理解は高かったものの、実際の計算では、ケアレスミスが多かったり、文章問題では、立式の根拠が見つけれなかったりなどの課題がある。 ・児童によって理解力の差が大きく、個別の対応が必要である。	・授業内でも繰り返し計算ドリルなどを使用し、小数点の移動や基本的な乗法、除法の計算の技能を高め、定着させていく。 ・文章問題では、数直線や線文図などを用いて、立式の根拠を見つけ出せるよう指導をしていく。	・朝学習や家庭学習などで計算等の反復練習に取り組ませ、正確な計算力の定着を図る。 ・理解が不十分な児童には、個別に対応する時間を多くもつようにし、基礎基本的な学力の向上を目指す。
第6学年	・児童間の学力差が大きい。学年相応の力が身につけていない児童がみられる。	・3桁の乗除法、小数の四則計算、分数の加減法など、基礎的な計算に確実に取り組ませる。個に応じてスモールステップをふませ、文章題にも取り組めるようにする。	・朝学習、家庭学習で繰り返し取り組ませ、適宜個別指導を行い、基礎基本を確実に身につけ、学力の向上を目指す。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	理 科
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第3学年	・動植物に対する関心が高く、観察や採集などの活動に意欲的に取り組んでいる。科学的な思考については、事物と事物の関係を捉えたり比較したり、共通点や違いを考えたりすることができるようになることが課題である。	・実際に目や手に触れる観察の機会を多くもち、さらに関心・意欲が高められるようにする。科学的な思考力を身につけさせるために、実験や観察からわかったことを、まず自分の言葉で整理し、それを交流しあう活動を取り入れる。	・科学的な思考力を高められるようなワークシートを作成したり、記入の仕方を工夫させたりする。また、自分の考えを説明する場面を多く設定する。
第4学年	・理科の学習に対して関心が高く、実験や観察に進んで取り組む。実験や観察からわかったことをもとに、自然の事物・現象の変化とその要因を関係づけたり、自分の考えを表現したりすることが苦手である。	・グループでの活動や発表する機会など、情報交換の場をより多く設けることで、学び合いを大切にしながら学習を振り返り、深め、視点を明確にし、表現方法を工夫できるようにする。	・学習したことをもとに、自分なりに考えて体験的活動の機会を多くし、観察の観点を明確にできるよう、児童の興味や関心がさらに深まるよう場を設定する。
第5学年	・課題に対して根拠のある考えや予想を立てることができないことが多い。 ・実験や観察からわかったことをまとめることや、結果を比較したり関連させたりすることが苦手である。	・単元の終わりに振り返りを行い、実験や観察を通した学習内容と結果の理解を確実なものにさせる。 ・自分の考え方の根拠に目を向けさせ、次の思考場面に生かすことができるようにさせる。	・科学の読み物や図鑑、テレビ番組等との出会いを奨励し、日常生活における自然的事象に興味や関心をもたせる。
第6学年	・実験・観察への興味・関心は高く、記録したりすることをまとめる力もついてきている。それをもとに科学的な思考を深め、自然事象についての知識・理解はまだ十分とはいえない。	・問題解決型の授業を多く取り入れ、自分の課題をしっかりとつかませたり、それを解決する方法をじっくりと考えたりする時間を多くとるようにする。また学び合いをするように、それに取り組む時間を多くしていく。	・ノートの点検や小テストを実施し知識理解の定着を図る。また調べたことやわかったことについて個々にノートにまとめ、発表する場を設ける。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	生 活
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・校外学習、動植物の世話など様々な直接体験をすることができた。さらに、季節の移り変わりや人とのかわりに興味をもって、進んで取り組む態度を育てることが課題である。	・引き続き、動植物を育てたり、親しんだりする学習に取り組む。校外学習や昔遊びなどの活動を通して、身近な人と交流できるようにする。記録する活動を大切にし、気付きを整理して互いに発表しあう中で、さらに興味を広げられるようにする。	・保護者や地域と連携し、理解や協力を得ながら活動を進める。日常生活の中で、自分と学校生活や地域のつながりを体験的に理解させることができるよう指導計画を工夫する。
第 2 学年	・身近な自然に親しみをもってかかわっている。町探検・野菜作りなどの活動を楽しみながら、さらに自ら進んで活動し、探求する態度を育てていく。	・児童がより学習意欲を高めていけるような活動の場を設定する。活動を通して気付いたことを伝え合ったり、ふり返ったりすることで気付きを深める。	・具体的な活動や体験を積極的に取り入れ、自分自身や自分の生活についてよく考えられるような活動計画を立てる。